

運転免許自主返納者に

運転経歴証明書交付手数料を新たに助成

佐久間議員は「持続可能な地域介護システムのあり方」で、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、公的福祉制度とともに地域福祉の拡充の必要性を問い、ボランティアの育成、買い物支援など優れた実践例の拡大、また交通事故防止の観点から自動車運転免許自主返納者への支援制度創設など、道内自治体の取り組みを紹介し本市での制度化を求めました。



問 増える高齢者に対応するサポーターの現状と育成について考え方を伺う。

答 市社会福祉協議会が運営する名寄市ボランティアセンターが身近な相談窓口として提供会員と利用会員のマッチングや啓発活動を行っているが、利用会員のニーズに応えられる提供会員の確保が課題となっている。

生活支援等サービズネットワーク会議における地域課題や地域資源の把握に努め、生活支援の担い手の養成・発掘に努めて参りたい。

を進めるとともに、現在事業を行っている団体の意見等を取り入れながら、より使いやすい制度にするよう努めた

い。また、次年度から配置予定の生活支援コーディネーターに各町内会や老人クラブ等を回してもらい、ニーズ把握とともに本事業の詳細を伝え支援のマッチングができるような体制づくりを開始する事としている。

運転免許自主返納者への支援は

問 高齢者の運転免許自主返納を進め、支援制度を実施している自治体が全道30ほどある。

全市民的に不均衡が生じることのないような制度も多数の自治体で取り組まれており、「地域の暮らしを支える仕組みづくり」の遅れは否めないと考えるが如何か？

答 交通安全グッズの配布に合わせる形で、運転経歴証明書の交付手数料助成制度を名寄市交通安全運動推進委員会の新たな事業として取り入れて参りたい。

粒々辛苦

▼寒さに強い苗を育ててみようとの試みで発芽させた「島唐辛子」を2つのプランターに同日に定植し経過を観察▼一つは常温、もう一つは冷凍庫に入れていたもの。当初は常温の種で育てたものの生育が勝っていた。ところが途中から冷凍種で育てたものが追い抜き、先に開花した。逆転したのは驚きの発見だった▼寒い冷凍庫から急激に温かい環境に移された「ショック療法的効果」の表れか、種子の生存本能の目覚めか：▼ふと、昔、農家を営んでいた実家で水稲の種モミを雪中に埋め、寒さに強い品種づくりを試みていた事を思い出した。「ヤロビ農法」と記憶している。理にかなっていたか？▼常温の種から育てたものは、その後札幌の娘宅のテラスに引越す。こちらも蕾が膨らんでいたから、恐らく2週間ほど遅れて開花すると思われる▼「2011」一辺は、お水あげてね。白くて可愛い花が咲くから「傍らで聞いていた孫、やおらペタンと正座しプランターの前でお祈り。「早く花が咲きますように」…」